

## 会長就任あいさつ

新潟大学看護学系同窓会ときわ会  
会長 白砂 由美子



新潟大学看護学系同窓会ときわ会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、ときわ会会長を仰せつかりました白砂由美子と申します。責務の重さに身の引き締まる思いがいたしますとともに、甚だ微力ではありますが皆様のご支援を賜りながら任務を全うして参りたいと思います。何卒よろしく願いいたします。

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行いたしました。医療の現場では、すべての「日常」が戻ってきたわけではありませんが、閉塞された状況から少しずつ制限が緩和されてきております。臨地実習においても患者さんと話し、触れ合う時間が増えてきています。振り返れば様々な制約の中、最善は何かを考え、この脅威に対応すべく新たな教育の在り方が生まれ、様々な変革がなされてきました。ピンチをチャンスに変え、乗り越える私たちの「力」を改めて認識いたしました。

令和5年7月、しばらくお休みしておりました「先輩と語る会」を開催いたしました。「先輩と語る会」は、看護師、助産師、保健師に従事している先輩方と学生が対面で語り合い、国家試験対策や就職後の状況など貴重な話を伺うことができると好評を得ております。今年度は新カリキュラムとなった2年生にも参加していただき、今後の専攻を検討するよい機会になったとご意見をいただきました。予定時間が過ぎた後も対話が続き、盛況の内に終えることができ、改めて「Face to Face」の重要性を感じました。

新潟大学医学部保健学科看護学専攻は、開設から約140年間、看護専門職の養成機関として幾度かの変遷の中、社会に求められる人材を輩出して参りました。令和6年度より、「医師の働き方改革」がいよいよ本格始動となります。タスクシフト・タスクシェアとして看護の力がさらに求められています。新潟大学医歯学総合病院は、特定行為指定研修機関となり特定行為研修修了者がそれぞれの学びを礎に活躍しています。保健学科においても、感染管理認定看護師教育課程（B課程）が開講し、専門性の高い看護職を育成しています。

これからも皆様のお力を借りながら、自律した看護専門職の養成機関としての母校の支援に尽力し、今後の同窓会運営を進めて参りたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 3年次の看護学実習での体験を通して

医学部保健学科看護学専攻3年 川口 美桜

3年次の看護学実習では、初めは不安や緊張が強く自分のことばかりに意識が向きがちでしたが、病棟で患者様の回復に向けた頑張りを見ることで、自然と患者様に意識が向くようになりました。実習中、患者様から「あなたが来てくれたおかげでここでの楽しみが増えたわ。ありがとう。」という一言をいただいた時に、私の行動で患者様は心身ともに変わっていくのだと感じ、少しでも患者様の力になれるようにと、日々のアセスメントや看護計画に力を入れるようになりました。学内実習でも、多職種連携や地域課題についてグループで話し合い、チーム連携や看護職の役割について学びを深めることができましたと思います。

## 2023年度の看護学実習で学んだこと

医学部保健学科看護学専攻3年 金子 歩未

2023年度の看護学実習では、初めて患者さんとしっかり接する機会が持てたことで特に患者さんの個性を踏まえた看護について考えることができましたと感じます。これまでの実習では訪室時間が15分という制限の中で看護過程を展開し、看護計画を実施するという十分に患者さんと関わる時間が確保できない実習でした。しかし今回はその制限がなくなり、はじめはどのように時間を活用したらよいのか、患者さんと関わったら良いのか戸惑いましたが、患者さんと2週間関わっていくうちに対象がどのような人であるのか理解を深め、それを踏まえたうえでの個性を考慮した看護計画を立て実施することができました。また学内の実習ではペーパーペイシエントや課題の検討をグループで行ったり、患者さんへ実施するケアの実技練習を行いました。メンバー同士で協力しながらグループワークや実技練習を行うことで、各々の今までの学びを共有したり、自分以外の多様な視点を知るきっかけとなりました。私は実習を通して現場の看護師への具体的なイメージを抱くことができたとともに、チームで協力することの大切さを再確認することができたように感じました。



学内実習の様子（グループワーク、沐浴の実技演習）

## 看護学実習での学び

医学部保健学科看護学専攻3年 阿部 美水

今年度の看護学実習は、学内での演習と臨地実習を組み合わせた形で実施されました。学内の演習ではそれぞれの領域で看護の対象となる方々の特徴を踏まえた対象者の見方や支援の方法について学ぶことができ、臨地実習で実際に患者様や療養者の方々と関わる際の手がかりとなりました。臨地実習においては、昨年までと比較して実際に病棟や地域で患者様や療養者の方々と関わる機会が多く、今までの事例を通しての学習では得ることのできない貴重な体験をさせて頂きました。そのなかで、実際に患者様や療養者の方と直接コミュニケーションをとることの大切さを学びました。患者様や療養者の方とお話させて頂くことで、その人の実際に感じている苦痛や人生観、生活のなかのこだわりや楽しみを知ることができ、それらをケアにいかすことでその人を尊重した関わりができるのだと考えるようになりました。今回の実習で得た学びを大切にして自身の看護観を養っていきたいと思います。



グループでの指導案作成場面



老年看護学実習での高齢者体験の様子



モデル人形を用いた実技演習の様子



## 2023年度のささだんごの活動について

医学部保健学科看護学専攻2年 飯田 朗

ボランティアサークルささだんごは、2011年に発生した東日本大震災で被災された福島の方々へのボランティア活動を中心に行うサークルです。ささだんごでは、福島に住む方々の健康の保持・増進、住民同士の交流を深めてもらうことを目的として、看護職の資格を持つ教員と一緒に健康相談会を開催しています。震災当初は毎月行っていましたが、最近では年に2回開催しています。参加者や開催する時期におけるニーズに沿って、健康への意識づけ、知識取得などを目的して問診や、健康教育を行っています。また、住民の方々の健康増進を目指して、楽しくみんなでレクリエーションを行っています。2023年の3月、8月に住民の方とゲームを通して交流を行いました。

住民の方とのつながりを継続するためにも、季節のお手紙を通じた交流もしています。また、お手紙と一緒に健康相談会のお知らせや、学校生活の様子などを写真も加えてお伝えするために「ささだんご通信」というお便りも同封しています。

また、被災された住民の方々の経験や人生の歩みを伺い、本にさせていただく「私語り」という活動もしています。私語りには、住民の方にご自身の人生を振り返っていただき、今後の頑張りや生きがいにつなげること、住民の方の語りを広く伝えるという目的があります。また、私たち学生にとっても人生の教訓や震災について学ぶことができる貴重な機会になっています。

新しい試みとして9月には福島県内の小学校との交流も行いました。交流を行った小学校は、震災の影響で子供が少なくなったため、令和3年に4つの小学校が統合してできた生徒数70人の小規模校です。小学校に伺い、コミュニケーションの促進と大学に興味関心を持ってもらうことを目的として子供たちと触れ合いました。今後も小学校との関わりを継続していきたいと考えています。



健康相談会の様子



福島県の小学校での交流

## 在校生と卒業生を繋げる「先輩と語る会」の開催

ときわ会書記 堀田かおり

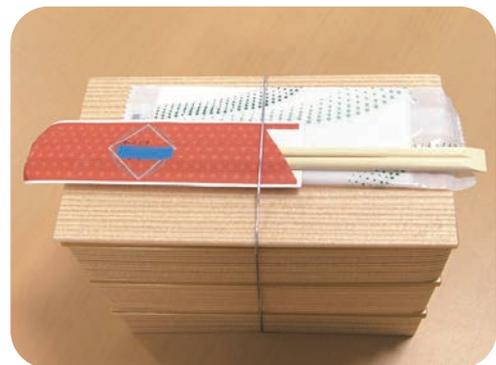
ときわ会では、「先輩と語る会」を2019年以来、4年ぶりに開催いたしました。在校生20名と卒業生8名（看護師4名、助産師2名、保健師2名）が交流し、大いに盛り上がりました。在校生からは、「どこで働きたいのか、どんなふうに働きたいのか、考えるきっかけになった」や「自分の将来を見据え、行動に移すきっかけができた」等の感想が聞かれ、今後のキャリア形成について考えるきっかけにすることができました。また、卒業生も「後輩とたくさん話ができて良い刺激になった」、「自分の経験が役に立てたようで嬉しかった」等、在校生との交流を今後のモチベーションにすることができたようでした。さらに、「同じ大学出身だからこそ共有できることが多かった」との感想があり、在校生と卒業生の交流に意義を感じることができる貴重な機会とすることができました。今後も在校生と卒業生が繋がることのできる活動を企画していきたいと考えております。



看護師・保健師・助産師各分野の先輩に協力していただきました



熱心に先輩の話を聞く学生たち



お土産のお弁当も好評でした

## 第14回 ときわ会総会および特別講演会のお知らせ

令和6年6月1日(土) ときわ会総会・特別講演会

会場：ANAクラウンプラザホテル新潟

総会：受付 12時30分～13時  
開会 13時

特別講演：14時～15時

講演会名「今、看護教員として目指していきたいこと」

講師：新潟薬科大学 看護学部 看護学科教授  
定方美恵子先生



### 定方先生 御略歴

昭和60年 新潟大学医療技術短期大学部看護学科助手として採用され、母性看護学等の専門科目を担当する。平成11年 新潟大学医学部保健学科看護学専攻助手として配置換え、講師、准教授を経て、平成23年教授として令和4年3月定年退職まで、看護学教育研究を担当する。

平成21年～5年間、文部科学省大学改革推進事業看護職キャリアシステム構築プラン「気づく」を育て伸ばす臨床キャリア開発」の事業担当者として、医歯学総合病院看護部とともに看護職育成に関わる。

令和2年から2年間、新潟大学ダイバーシティ担当副学長、男女共同参画推進室（のちにダイバーシティ推進室に室名変更）室長としてダイバーシティ&インクルージョン推進に関わる。

### 【講演会申し込みについて】

対象者：新潟大学看護学系同窓会ときわ会正会員（卒業生）

新潟大学看護学系同窓会ときわ会準会員（在学生）

参加定員：50名 先着順

参加費：無料

なお、参加された皆様にはスイーツを準備しております。

### 【申し込み方法】

総会・特別講演会に参加される方は令和6年4月30日までに以下の方法のいずれかで申し込みをお願いします。

① 二次元コード ② [tokiwakai@clg.niigata-u.ac.jp](mailto:tokiwakai@clg.niigata-u.ac.jp)

③ はがき（同封されている方のみ）



### 事務局からのお知らせ

1. 「クラス会開催支援用宛名シール」発行について  
使用目的はクラス会開催連絡に限ります。また、個人情報保護のために手続きを厳守してください。ご希望の方は、ときわ会事務局へメールでお問合せください。
2. 住所氏名等の変更があった方へ  
住所氏名等の変更のあった方は、新潟大学ホームページより保健学科同窓会南山会ホームページの各種手続き内の「住所変更、氏名変更」への入力または、ときわ会事務局にご連絡ください。
3. 「同窓会費（終身会費）」について卒業までに納入できなかった方へ  
会費納入者への個別の会費納入依頼は行っていません。  
南山会ホームページ <http://www.nanzankai.org/> でのご案内をしておりますのでご覧ください。  
ご不明な点はときわ会事務局にお問合せください。

ときわ会事務局宛 メールアドレス：[tokiwakai@clg.niigata-u.ac.jp](mailto:tokiwakai@clg.niigata-u.ac.jp)

〒951-8518 新潟市中央区旭町通2番町746

新潟大学医学部保健学科気付 新潟大学看護学系同窓会 ときわ会事務局